

暑さ指数（WBGT）の情報提供及び「熱中症予防声かけプロジェクト」について

環境省 水・大気環境局 大気生活環境室

I. 暑さ指数（WBGT）の情報提供について

1. 目的

地球温暖化やヒートアイランド現象に伴って、高温下での熱中症の発生が数多く報告されている。さらには、5月13日に政府の電力需給緊急対策本部において取りまとめられた「夏期の電力需給対策について」において、「行き過ぎた節電は、熱中症等の健康被害を生じるおそれもあるため、節電啓発活動に当たっては健康への配慮等についても十分周知する」こととされている。これらに対応するため、熱中症予防情報（WBGT情報）について予報地点数を増やし、当日の実況値についても1時間毎に提供するなどにより、一般及び地方自治体に提供を行い、その活用を推進することによって、熱中症の予防を図る。

2. 提供する情報（提供期間：6月1日～9月30日）

（1）WBGTの予報値

気象庁が発表している日照時間、湿度等数値予報データを用いて、全国の約150地点（昨年までは47地点）のWBGTの予報値を算出し、当日、翌日、翌々日の3日間分（昨年までは当日、翌日の2日間分）について、毎日公開する。

なお、予報値は、3時間ごとの値とし、更新間隔は6時間間隔である。

（2）WBGTの実況予測値（現在のWBGTの推計値）

今年度より新たに、気象庁が観測している日照時間、湿度等の観測データを用いて、全国の約150地点（地方気象台の日照時間観測点）のWBGTの実況予測値（現在のWBGTの推計値）を1時間ごとに算出し、これを公開する。

（3）WBGTの実測値

① 測定地点

昨年度同様、次の6気象台及び2AMEDAS観測所にて測定。

- ・東京管区気象台
- ・新潟地方気象台
- ・名古屋地方気象台
- ・大阪管区気象台
- ・広島地方気象台
- ・福岡管区気象台
- ・八王子（AMEDAS観測所）
- ・練馬区（AMEDAS観測所）

注：八王子及び練馬区については、都市と郊外のWBGTの違いを把握するために測定を実施。

② 公表の単位時間、更新間隔

WBGTの1時間ごとの実測値を公開する。

3. 情報提供ホームページのイメージ

(1) 予報値、実況予測値、実測値の提供

- ① 日本地図から地方を選択。(例：関東地方、中部地方等)
- ② 選択した地方毎にさらに細分化した地方名を選択。(例：関東北部、中部、南部等)
- ③ 下記のような表により値を見ることができる。

東京		今後の予測							
		3時	6時	9時	12時	15時	18時	21時	24時
6月1日 14時時点 25°C	6月1日	—	—	—	—				
	6月2日								
	6月3日								

(2) 暑さ指数の表示

以下2つの熱中症指針を指標とし、測定値等を各指標に応じて色分けして表示する。

- ① 日本体育協会「熱中症予防のための運動指針」(1994年)より

WBGT	熱中症予防のための運動指針	
31°C以上	運動は原則中止	WBGT 31°C以上では、皮膚温度より気温のほうが高くなり、体から熱を逃がすことができない。特別の場合以外は運動を中止する。
28～31°C	厳重警戒	熱中症の危険が高いため、激しい運動や持久走などは避ける。体力低いもの、暑さに馴れていないものは運動中止。運動する場合に積極的に休憩をとり水分補給を行う。
25～28°C	警戒	熱中症の危険が増すため、積極的に休憩をとり、水分を補給する。激しい運動では30分おきくらいに休憩をとる。
21～25°C	注意	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意しながら、運動の合間に積極的に水分を補給する。
21°Cまで	ほぼ安全	通常は熱中症の危険性は少ないが、水分の補給は必要。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意する。

② 日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針」Ver. 1（2008年）より

温度基準 (WBGT)	注意すべき 生活活動の目安	注意事項
危険 (31℃以上)	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
厳重警戒 (28～31℃)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25～28℃)	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。
注意 (25℃未満)	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

4. 地方自治体等への情報提供（提供期間：準備完了次第～9月30日）

希望自治体や企業等に一定間隔で、予報値、実況予測値及び実測値データを電子メール等にて提供する。提供するデータは提供先の希望に基づき、全部又は特定の地域のみ送れるようにする。

（提供方式）

① 電子メール方式

予め指定されたメールアドレスあてに予報値等のデータファイルを添付した電子メールを送信する。

原則、基準となる暑さ指数の値を予め定め、毎朝6時の予報値算出時に基準値以上の値が出現したとき又は毎日6時から20時までの間、1時間ごとの予測・実測される実況予測値及び実測値に基準値以上の値が出現したときに、当該データを電子メールにて送信する。

② HTTP方式

本業務の請負先である独立行政法人国立環境研究所（以下「国環研」という。）のHTTPサーバーに、地方自治体等がアクセスし、予報値等のデータをダウンロードする。

③ FTP方式

地方自治体等のFTPサーバーに、国環研が接続し、予報値等のデータを送信する。

②及び③については、指定された地域における6時、12時及び18時に算出された暑さ指数の予報値データ、1時間おきに予測・実測される実況予測値及び実測値データを算出等の都度、提供する。

Ⅱ. 「熱中症予防声かけプロジェクト」について

熱中症予防に係る正しい知識を普及するとともに、民間企業や行政機関が連携し、熱中症予防の声かけの輪を広げる取組として、「熱中症予防声かけプロジェクト」が「熱中症予防声かけプロジェクト実行委員会」の主催により今夏より開始される。本実行委員会（別紙）には環境省も参画している。

今般、本プロジェクトのキックオフミーティングが、同実行委員会の主催により、次のとおり開催される。

(1) 日時

平成 23 年 6 月 8 日（水） 13:30～15:30(13:00 受付開始)

(2) 場所

東京ミッドタウン カンファレンス Room 7（東京都港区赤坂 9-7-1）

(3) 対象

メディア関係者、企業関係者

(4) 内容

- ・プロジェクトキックオフに係るプレス発表
- ・熱中症予防セミナー

(5) 取材に関するお問合せ先

熱中症予防声かけプロジェクト 総合運営事務局（担当：波房、高見）

TEL 03-6441-4893

FAX 03-6441-4894

電子メール info@hitosuzumi.jp

(6) 参加申込み（以下の URL よりお申し込みください）

<http://hitosuzumi.jp/entry>

(別紙)

「熱中症予防声かけプロジェクト」実行委員会
実行委員名簿

実行委員長 井手迫 義和
国際気象放送協会(IABM)アジア代表理事、気象予報士

副委員長 河野 一郎
筑波大学特任教授、日本アンチ・ドーピング機構会長、
日本オリンピック委員会理事、
元・東京オリンピック・パラリンピック招致委員会事務総長

実行委員 相原 正道
多摩大学経営情報学部客員准教授

実行委員 大村 卓
環境省 水・大気環境局大気環境課大気生活環境室長

実行委員 日下 博幸
筑波大学 計算科学研究センター准教授

実行委員 槌屋 茂康
株式会社イレブン代表取締役社長

実行委員 土肥 大介
株式会社柴田書店 代表取締役社長

実行委員 根本 美緒
気象予報士、フリーアナウンサー

実行委員 三宅 康史
昭和大学医学部准教授

実行委員 宮島 秀司
映画プロデューサー、文化女子大学大学院客員教授

実行委員 森上 淑美
一般社団法人日本介護支援専門員協会 副会長

実行委員 山川 修司
日本大学文理学部地球システム学科教授

実行委員 横川 紀夫
株式会社ディーンアンドデルーカジャパン取締役会長

実行委員 渡部 厚一
筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ医学専攻講師

(実行委員は五十音順)